

「常陸秋そば」春播き栽培における播種適期		
<p>[要約]</p> <p>「常陸秋そば」の春播き栽培における播種期は、収量および降霜のリスク等を考慮し、4月中下旬が適する。</p>		
農業総合センター農業研究所	成果区分	技術参考

1. 背景・ねらい

県産そばの作柄は秋期の天候に左右されやすく、年間をとおした供給が不安定になりがちである。さらに実需者からは夏季のそば需要期における「新そば」の供給が望まれている。そこで「常陸秋そば」の春播き栽培への適応性および播種適期を検討し、夏季のそば需要期出荷を想定した栽培技術を開発する。

2. 結果の内容・特徴

- 1) 3月末～4月10日頃に「常陸秋そば」を播種すると、低温および晩霜によって、葉の褐変および黄化等の障害を受けやすく、 m^2 当たり株数が低下する(表1)。
- 2) 「常陸秋そば」を春播きした場合、4月10日～20日頃の播種で45kgを上回る収量が得られる。4月末～5月以降の播種では、草丈が高くなって倒伏しやすくなり、収量も低下する。(図1、2)。
- 3) 春播き栽培した「常陸秋そば」が収穫適期(黒化率80%以上)に達するのは、4月10日頃の播種で7月10日頃であり、4月20日頃の播種で7月15日～20日頃である(図3)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 春播き栽培では、収穫時の雀害による減収程度が大きく、2ha以下での栽培は避ける。
- 2) コンバインによる収穫は、茎葉水分が高いため、目穴を広くした受け網を装着して、2番還元への茎葉の混入を少なくするような改良を加えて実施する。
- 3) 肥沃な圃場では、慣行栽培(8月播種)よりも過繁茂となりやすく、結実の減少および極端な収量低下につながるため、施肥を控えるようにする。
- 4) 春播き栽培後のそば子実脱粒による雑草化には十分注意する。

4. 具体的データ

表1 そば播種日と出芽期の関係および4月下旬の低温および晩霜による被害株の割合

平成18年				平成19年			
播種日 (月/日)	出芽期 (月/日)	低温・霜害による 被害株率(%)	収穫時の株数 (本/m ²)	播種日 (月/日)	出芽期 (月/日)	低温・霜害による 被害株率(%)	収穫時の株数 (本/m ²)
3/30	4/13	28	66	3/29	4/10	89	株数の著しい低下 により試験中止
4/10	4/19	11	87	4/11	4/21	36	69
4/19	4/28	-	111	4/21	4/29	-	116

- 1) 試験場所: 水戸市農業研究所圃場、黒ボク土
- 2) 被害株調査は平成18年4月28日、平成19年5月1日に実施した。
- 3) 被害株は葉の褐変、黄化、白抜けおよび枯死株をカウントした。4月20日前後の播種については調査未実施である
- 4) 最低気温3℃以下の日: 平成18年4月16日～30日まで 22日、26日(両日とも降霜あり)
: 平成19年4月16日～30日まで 19日、20日、27日

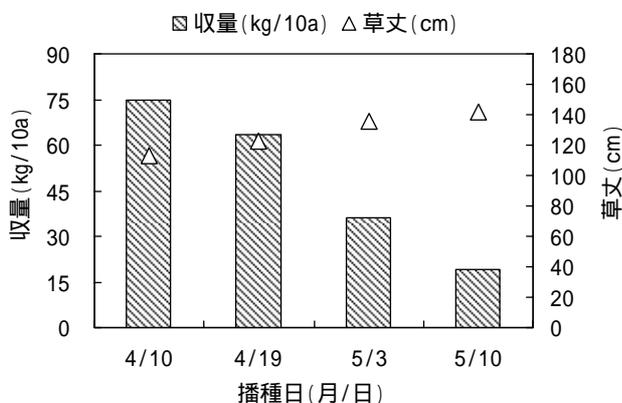


図1 播種日と収量・草丈との関係(平成18年)
収量データは坪刈り収量による推定値である。
防雀網併用により、収穫時の雀害を排除した。
試験場所: 農業研究所(畑圃場・黒ボク土)
耕種概要: 施肥量 N:P₂O₅:K₂O=2:8:8 (kg/10a)
播種量 5kg/10a、畦間 68cm

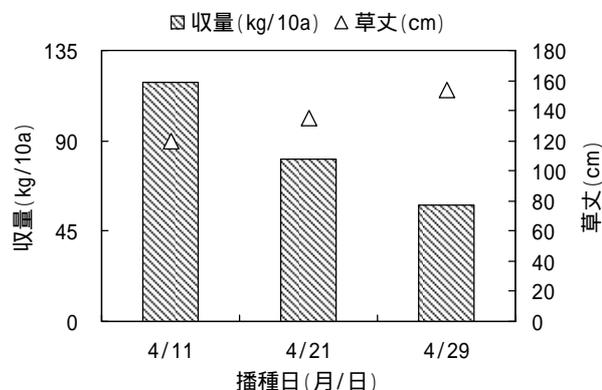


図2 播種日と収量・草丈との関係(平成19年)
収量データおよび試験方法は図1に準ずる。

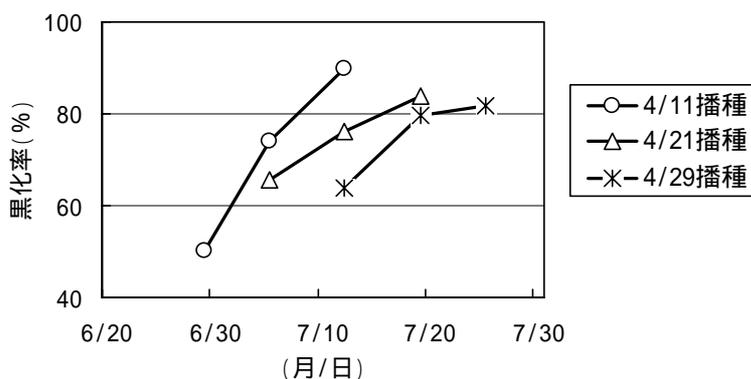


図3 播種期別の収穫時黒化率の推移
(平成19年・水戸市・農業研究所)

5. 試験課題・試験期間・担当研究室

春播きそば栽培技術の開発・平成18年～19年度・作物研究室